

権利者へ利用許可申請をする

今回使われた提示資料には、

- ・写真集（一般書籍）
- ・記念誌
- ・個人のホームページ

から読み取りされた資料が使われていた。

権利者の特定



- ・写真集（一般書籍）
- ・記念誌
- ・個人のホームページ
- ・どの文献に掲載されているのか
- ・どこに申請すればよいのか
- ・どのような申請が必要なのか（様式の有無など）

公文書館にしぼる

おっらい 仲本先生 HP 用

No.	オーラル HP 写真	公文書館所蔵写真（類似画）	備考
1			Keyword: 茶元 寺橋 レファレンス
2			同一画像あり 02_01.jpg
3			同一画像あり 03_01.jpg
4			類似画像あり

・いったん閉鎖していたホームページ
2013年にリニューアルして再公開

・作成前から、一般に公開することを前提としていなかったことが原因

・収集段階から、著作権についての理解が必要

収集しても公開できない資料は、記録しない方がいい？

収集しても公開できない資料は、記録しない方がいい？



2013年某日

話者：石川元平氏

沖縄復帰運動の父と言われた屋良朝苗氏についてのインタビューの様子

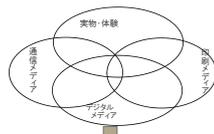
[動画を見る](#)

写真、アルバム、書籍等 = 「語りの材料」



著作権処理をどのように行うのか？

収集した記録の保管方法を見直す



選別・評価に必要な情報収集

収集したデータの整理
(メタデータ等の付加)



Item Pool

データの一時保管を行うための、いわゆるデータベース

長期 Item Bank

著作権、プライバシー等の配慮から、数十年後、数百年後まで保管するためのデータベース

権利等に関係のある資料
数十年、数百年先に公開



利用許可を得た著作物等
現状で利用可能



短期 Item Bank

権利者から使用許可を得られた資料など

大山の大綱引き（沖縄県）

大綱引きのデジタルアーカイブの開発にあたって

大綱引きの映像は一般に綱引きの場面のみのデータの記録が多い。しかしデジタルアーカイブとしては、その行事全体、地域の文化、宗教、慣習や人々の活動も含めて、その背景をいかに記録し、現在さらに次の世代へ伝えるかが課題である。

このため、撮影・記録にあたっては、大綱引きの歴史・文化的背景、現状の調査、関係者との打ち合わせ、資料の提供、綱の設計図、撮影場所の許認可などの事前の活動が必要である。また、大綱作りにあたって、現在は地域で得られなくなった稲藁をどのように集めるか、大綱作りの共同作業など事前の作業をいかに正確に伝えるかの工夫が必要である。つまり、行事等のデジタルアーカイブの開発には、記録対象についての多面的な調査、関係者との協議、具体的な記録の目的と撮影計画、撮影データの活用イメージを持つといったことが求められる。

実際の大綱引きの行事当日は、単に綱引きのみではなく、御嶽での祈願から始まり、道中（道ジュネー）で地域の罪穢れを払っている様子、それから大綱引きの状況などを撮影した。この時、撮影者の配置も事前に計画し、協力者への依頼を行った。大綱は大きくて長いため、高い位置いカメラを配置し、同時に多方向からの撮影者と自由に移動できる撮影者を計画的に配置した。

このように、行事は一般に祭の状況を撮影・記録するのみならず、過去からの伝承（背景）、準備の状況、当日の一連の流れ、関係資料の収集を総合的に進めるべきである。

そのためには、事前に何をどの様に伝えるかといった記録の目的を明確にし、そのために必要な資料、情報を収集・整理し、確実に撮影・記録ができる準備をすべきである。このような行事のデジタルアーカイブ化には、事前の調査、準備（機材の手配、協力者への依頼、撮影者の配置を含む）が重要となる。

大山の大綱引きの記録例

沖縄の綱引きは、県内およそ 170 ヶ所において、今なお受け継がれている伝統行事である。国の定める文化財保護法においては、綱の形態や引き方について、南九州や朝鮮半島との関連性も指摘されるなど、内容的に豊富で、多様な魅力を有する地域の伝統文化として認められ、「記録作成等の措置を講ずべき無形の民族文化財」に選定されている。



沖縄県宜野湾市 大山の大綱（先端）と（胴体）



沖縄県与那原町 与那原の大綱（先端）と（胴体）

綱引き行事と稲作文化

沖縄県宜野湾市大山区の綱引きは、戦後しばらく途絶えていたが、1965（昭和40）年に復活して以来、毎年旧暦6月15日（ウマチーの日＝稲の豊年祭）に近い日曜日に開催されている。大山区のように、稲作の節日に行われることは、他の地域にも共通する沖縄の綱引きの特徴である。このことから、沖縄の綱引きが、元来、稲作文化との結びつきが強い伝統行事であることがわかる。

沖縄の綱引きと稲作農耕との繋がり、稲作が衰退した今なお、他地域から稲藁を調達してでも綱の材料としているところに見て取れる。また、綱作りの際に、脱穀機を用いて稲藁を鋤くことも、稲作農耕との深い結びつきを伝えている。



調達先（沖縄県金武町伊計）の稲田



沖縄県金武町伊計より購入した稲藁



宜野湾市大山での藁鋤き作業



藁鋤き後の藁束

綱引き行事と祭祀儀礼

綱引き行事の一環として今なお続く、各聖地への参拝という祭祀儀礼も、地域の精神文化を今に伝える重要な文化情報である。宜野湾市大山区では、綱引き行事の成功祈願としての意味だけでなく、かつて稲作が盛んであった当時から伝えられる豊穡祈願といった予祝儀礼のほか、地域住民の健康と発展を願う意味合いが込められている。

その他、災厄を祓うといった意味合いから、綱引き行事の終了後、綱を川へ流したり、焼き払うなどの処理を行う地域も存在する。

こうした聖地などの神聖な場所は、各地域で大切に護られてきた重要な文化遺産であるため、現地を取材・撮影する場合には、細心の注意を払わなければならない。事前に施設管理者・土地所有者へ撮影の許可を申請するだけでなく、地域住民が大事に護ってきた文化に対する理解と敬意をもって行う必要がある。



大山の聖泉「ヒージャーガー」



大山の斎場「綱の神」



大山の聖地「大山御嶽（ウタキ）」



大山の聖地「美底山（ミスクヤマ）」

大綱の形態

大山の綱引きは、全長約 40m の稲藁で縛った大綱 2 本（雄綱・雌綱）の先端の輪（これを「カヌキ」と呼ぶ）を、カヌキ棒（貫棒＝ぬきぼう）と呼ばれる長さ約 8 尺（240cm）の松の丸太を貫いて結び、集落を前部落と後部落とに二分して引き合う勝負となっている。また、カヌキに施された見事な編み込み装飾は、大山大綱の特徴を示している。



大山の大綱（雄綱）



カヌキ部分の編み込み作業



完成したカヌキの編み込み



カヌキ棒で一本に結ばれた大綱

大綱引きの撮影方法

大山の綱引きの最大の見どころは、何といたっても綱引き本番の前に行われる「アギエー（上げ合い）」と呼ばれるダイナミックな一本勝負である。この大山伝統の一戦は、両綱を長さ6尺（約180cm）の棒で頭上高く持ち上げてぶつけ合い、相手の綱を先に地につけた方が勝ちとなる、大綱引きの前哨戦である。

特に迫力あるアギエー勝負の撮影方法としては、両綱の全体的なモーション映像を記録するため、撮影者10人による多方向（10点）撮影を行った。今回、撮影協力者4人を高地ポイントに配置し、定点（固定）撮影を行った。残り6人は地上での自由配置として、フリーショット撮影とした。ここでの撮影のねらいとしては、高いポジションから両綱全体の動きを捉えることと、地上からは両綱の迫力ある動きと行事参加者の表情を接近で捉えることである。



定点撮影 ①（南東側高地）



定点撮影 ②（南西側高地）



フリーショット撮影 ①（北東側地上）



フリーショット撮影 ②（北西側地上）



アギエー勝負（フリーショット撮影）



アギエー勝負（定点高地撮影）



大綱引き（フリーショット撮影）



撮影データの利用・提示

大山の綱引きの撮影データは、綱引き当日の多方向からの豊富な撮影資料のほか、稲藁の調達、綱縋い作業、祭祀の様子などで構成された映像作品（DVD）として仕上げられ、今後の地域文化の継承へと役立てていただくために、撮影に協力していただいた地元へと還元された。

撮影計画の段階から利用や提示方法について検討しておくことは大変重要である。撮り直しがきかない文化活動などを記録する際は、撮るべき内容を事前に把握しておくことで、撮影漏れを防ぐことができる。十分な下調べをもとに要所を押さえた撮影計画を立てておくことが望ましい。

撮影・取材の失敗例

【機材トラブル】

- ・機材の不調（機材の故障、破損、部品の紛失等）
- ・バッテリー切れ
- ・録画容量の不足
- ・メディアの不調

※ 対策：事前に機材の確認・調整を行う。予備の機材、バッテリー、メディアを用意しておく。

【人的トラブル】

- ・録画ボタンの押し忘れ
- ・音が収録されていない、録音データの音量が小さく聞き取れない
- ・カメラの配置場所が悪い（必要な映像が撮れていない、行事の妨げになってしまった）
- ・体調不良（特に野外での撮影では、炎天下における脱水症状や熱中症等に注意が必要）

※ 対策：互いに声を掛け合う。可能であれば、1拠点複数人のチームで望みましょう！

【環境トラブル】

- ・安全確保（撮影対象との安全な距離の確保、時間帯や場所によっては暗い・危険・酔っ払い等に注意）
- ・周囲の雑音を極力減らす・避ける（空調のモーター音、BGM等）

※ 対策：撮影会場の事前調査を行い、危険個所の確認や音響の状況等を確認する。

【慣習、ルールへの配慮】

- ・撮影時のフラッシュや照明による光害
- ・立入禁止区域、男子禁制、女人禁制などの慣習の有無
- ・撮影禁止エリア（ドローンによる空撮の場合は飛行禁止エリアを含む）、三脚使用禁止エリア等

※ イベント主催者側との事前の協議、撮影当日の綿密な打ち合わせ等で注意事項を確認する。

参考文献：

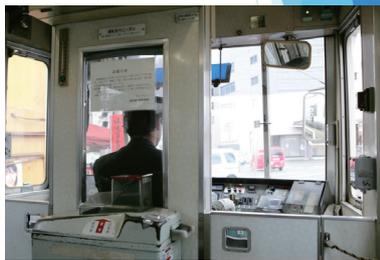
「デジタルアーカイブの資料収集・撮影・記録の基礎」（第4章-4, pp.136-142）

〔岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所：2018〕

路面電車デジタルアーカイブ

収集した資料の種類と資料数

- 動画 miniDVCAM80×5本
HDV CAMもあり
- 静止画 デジタル500枚
ポジもあり
- その他 書籍、関連パノフレット
チラシ 等



路面電車デジタルアーカイブ

収集した資料内容

- 岐阜市内線・揖斐線・美濃町線の主要交差点や橋などの動画、静止画
- 運転手の方の後ろからの車窓からの動画撮影
- 車内の様子の静止画



路面電車デジタルアーカイブ

収集した資料の整理

- 静止画…路線ごと・撮影ポイントごとに整理
- 動画…路線ごと・撮影ポイントごとに編集・整理

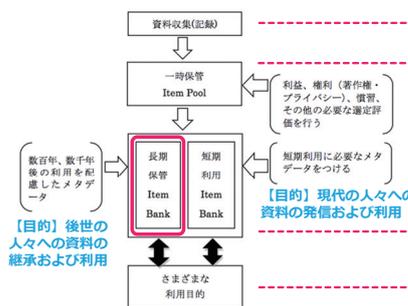


長期保管という保管方法

静止画、動画ともに高精細映像で撮影した。そのため、映像から人物や車両等を特定される可能性がある。利用には最新の注意が必要となる。

路面電車のデータについては、著作権・プライバシー等の問題がクリアになる「長期（数十年から数百年、数千年後）の保存」（＝長期保管）を考えていた。

デジタルアーカイブと保管方法



デジタルアーカイブのプロセス

- ① 資料収集
- ② 資料管理
- ③ 資料選定
- ④ 資料保管
- ⑤ 資料の利用
- ⑥ 資料・コンテンツの評価・分析
- ⑦ 資料・コンテンツの改善

図1 Item Poolと短期・長期Item Bankの関係

デジタルアーカイブと保管方法

権利所有者の意向や目的、資料内容等によって収集したデータを選定評価し、長期保存と短期保存に分類する。

保管方法の違いによる

著作権・プライバシー等の権利処理の違い

長期保管	著作権等が問題がクリアになる「長期（数十年から数百年、数千年後）の保存と利用」を考える保管方法。→保管方法等の説明や利用の際の許諾詳細が重要。
短期保管	「短期（現在から数十年後）の利用と保管」を考える保管方法。→具体的な利用についての著作権（財産権）・プライバシー等の許諾が必要。

■ 長期保管と短期保管を区別することで、資料収集に関する課題を解決することもできる。

例えば、資料を撮影記録する際、著作権等の問題でデジタルアーカイブの記録が困難な場合（提供者のとの許諾等）もあるが、長期保管の場合、利用目的が現時点の利用ではなく、後世の人々への継承等を目的にしていることから、撮影記録に一定の理解が得られた事例もある。

その他、資料利用の可能性、資料提供の諸条件の解決方法としての働きが期待できる。

■ 長期保管を可能にするための現状の作業としては、資料データのハードディスクのみでなくCDやDVD等の複数の媒体での保存や、マイグレーション/エミュレーションを行うこと、また再生機器や再生環境などの情報もメタデータにしっかり記録しておく必要がある。

地域連携によるメディアミックスの実現 ～本学の地域資料デジタルアーカイブの利活用～

産学官連携・地域連携

本学も多様な企業・地域との連携を行っている。

- 岐阜女子大学WEB (<https://gijodai.jp/chiki-renkei/>)

2014年8月25日	岐阜新聞社と岐阜女子大学との包括連携提供が締結
2015年1月14日	本学理事長と岐阜新聞社による話合い 本学のデジタルアーカイブの利用について具体的に話が進んだ。
2015年1月21日	本学学長、本学文化情報研究センター長と岐阜新聞社が名鉄路面電車のデジタルアーカイブの利用について打合せをした。

地域の産学連携による資料データの利活用

岐阜新聞社と岐阜女子大学との包括連携提供が締結されたことにより、
・岐阜新聞（印刷メディア）、・岐阜新聞電子版（通信メディア）
・岐阜放送（岐阜新聞を親会社とする放送メディア）

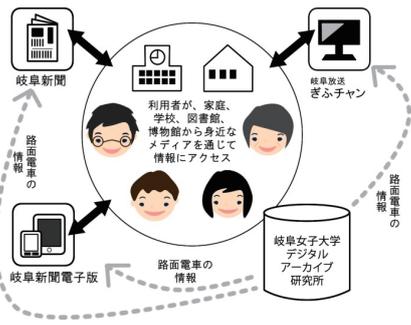
デジタルアーカイブ資料の利活用が実現することになった（メディアミックス）。

メディアミックスとは

さまざまな広告媒体を組み合わせることで、お互いの弱点を補う広告手法のこと。

例えば、小説やマンガを映画化したり、TVドラマ化したりすることで、両者の売上を伸ばす方法である。そのほかにも新聞、雑誌、ラジオ、電車内広告、折込広告、POP広告などを目的や場所に応じて使い分け、商品を販売することもメディアミックスに含まれる。（ASCIJ.デジタル用語辞典の解説WEBより）

地域情報の多様なメディアでの発信



10年の間、保管してきた名鉄岐阜路面電車のデジタルアーカイブ資料を岐阜市民への周知が可能になった。

ひとりひとり自分の生活環境や目的に応じてメディアを選択し情報を得る。

高度情報社会とデジタルアーキビストの能力

高度情報社会では、年齢や環境、時間などにとらわれず、個人のニーズに応じて情報を得られる「総合的な情報提供システム」が望まれている。

また、若い世代はフェイスブックやツイッター、インスタグラムなどのSNSを利用して情報を収集するともいわれている。

今後、デジタルアーキビストとして、時代の移り変わりを読み、多様化する情報通信メディアをとおして適切な情報発信を行っていく力が求められる。

日常生活もデジタルアーカイブの対象

名鉄岐阜路面電車のデジタルアーカイブ化は廃線を機に企画された。それまでは路面電車がある生活が当たり前であったが、このように当たり前の生活（生活文化）もデジタルアーカイブの対象として目をむける必要がある。

また、当初は長期保管を考えていたが、10年経てば街の様子も変するため、定期的な地域の記録が必要だと感じた。

今後、それらの記録の発信・資料の提供が、市民ひとりひとりの地域への興味・関心に繋がり、眠っている地域の文化産業資源の新たな魅力発見につながっていくと考えられる。

= まちづくり、地域づくり

地域間の協力体制と情報共有・情報発信

今回の事例は、地域間での産学連携により実現した。

他の地域においても、地域間での協力体制（MLCA連携）と体制内での情報共有、また、その情報発信や情報提供の方法などがポイントになってくるだろう。

その際のビジョンをもっておく必要がある。

【課題】あなたが地域の情報を発信するとしたら、何を対象にしますか？また、どこと連携したいと考えますか？その理由も含め、考えてみましょう。

今後の課題

- 他の地域での連携の具体性
- どのように連携の成果・効果を計るのか。
- デジタルアーカイブの具体的な利用方法の提示
 - ①教育利用 ②観光利用 ③生活での利用
- 長期保管データの利用にあたりプライバシーへの配慮
- デジタルメディアの保管方法やメタデータ 等

ご清聴ありがとうございました。

用語

IT用語辞典（<http://e-words.jp/w/マイグレーション.html>）

マイグレーション【migration】移行 / マイグレ

マイグレーションとは、移行、移転、移住、移動、乗換などの意味を持つ英単語。ITの分野では、ソフトウェアやシステム、データなどを別の環境に移転したり、新しい環境に切り替えたりすることを意味することが多い。

コンピュータに導入されたOSなどのソフトウェアを、古いバージョンから新しいバージョンに入れ替えることをマイグレーションという。プログラミングやソフトウェア開発で、古いプログラミング言語や開発環境で記述・開発されたソフトウェアを、別の言語や新しい環境に適合するよう変換することをマイグレーションという。

企業の情報システムなどで、老朽化した機器や開発元のサポートが期限切れとなったソフトウェアなどを破棄し、同じ働きをする新しいシステムを構築して切り替えることをレガシーマイグレーション、あるいは単にマイグレーションという。

データベースシステムなどで、古いソフトウェアに蓄えられたデータを抽出・変換して新しいソフトウェアに移転することをデータマイグレーションあるいは単にマイグレーションという。

用語

IT用語辞典（<http://e-words.jp/w/エミュレーション.html>）

エミュレーション【emulation】エミュレート / emulate

エミュレーションとは、ある装置やソフトウェア、システムの挙動を別のソフトウェアなどによって模倣し、代替として動作させること。代替となるソフトウェアなどのことを「エミュレータ」(emulator)という。

よく行われるのは、特定のマイクロプロセッサ(MPU/CPU)やコンピュータ、オペレーティングシステム(OS)などと同じ振る舞いをするソフトウェアを作り、別の環境上でそれらをエミュレーションする方式で、本来それらの環境上で動作するソフトウェアなどを別の環境でそのまま動作させることができる。

通常、ソフトウェアは特定の設計の装置やOSで動作するよう構成されており、異なる設計の環境下ではそのまま実行できず、その環境に適したものを別に用意しなければならない。エミュレーションは特定の装置やOSなどとまったく同じように動作し、ソフトウェア側からは本来の環境と区別がつかない状況を作り出すことにより、別の環境でもそのまま動作させることを可能とする。ただし、プログラムやデータの改変や再構成が不要なだけで、利用できる機能に制約が生じたり、性能が本来より劣化したりすることが多い。

エミュレーションはソフトウェアによって行われる方式が馴染み深いのが、装置や機器、システム、サービスなどによって行われることもある。また、対象となるのはソフトウェアとは限らず、装置や機器に対してエミュレーション環境を用意して動作させることもある。